

浜松労災病院

◎整形外科の近況

河本整形外科部長のもと、整形外科は現在6名の医師でがんばっております。手術は、手の外科・関節外科・脊椎・外傷など整形外科のほとんどの分野をカバーしております。学会や論文で得た様々な知識を吟味し、新しい手技をどんどん取り入れています。人工股関節全置換術・人工骨頭置換術のとき、適応を選んで筋間アプローチ (anterolateral approach や direct anterior approach) をしております。筋肉を温存するためか、術中・術後の安定性は抜群で、多くの症例で術後の安静度は屈伸・内外旋はフリーとなっています。また疼痛も少ない印象です。脊椎の手術でも傍脊筋の温存に努めています (MD, MED, MILD 法, Wiltse のアプローチなど)。症例に合わせて、髄核摘出・椎弓切除・PLIF・TLIF・PLFなどを組み合わせて対応しております。肩の鏡視下手術も積極的に取り組んでおります。

開業医の先生方には、いつも多くの症例を御紹介賜りまして本当に有難うございます。

手術室のスタッフの方々にもよく御協力頂いており、大腿骨頸部骨折・転子骨骨折も抗凝固剤の服用や全身状態の問題がなければ、即日～数日以内に手術が可能です。腰椎麻酔・伝達麻酔で可能な外傷も同様であります。

外傷のみならず慢性疾患や精査目的なども含めてできる限りの対応をさせていただきますので、今後とも宜しく御紹介賜りますようお願い申し上げます。

(勤労者脊椎・関節センター 松村拓郎)

◎フィルムレス化運用にむけて

平成20年4月より診療報酬の改定があり、画像診断部門ではフィルムを使用を無くす方向での改定がされています。この動きは平成17年頃からあり、平成18年4月に赴任してから新棟の建設と合わせインフラの整備、フィルムレスへの対応を視野に入れ、新館建設の計画に合わせた段階的な画像情報ネットワークの構築をしてきました。本年度3月より新オーダーリングシステムが稼動し、オーダーリングの端末を利用した画像参照も可能となり、まだ完全ではないものの4月からのフィルムレス加算が算定可能というところまでこぎつける事が出来ました。完全フィルムレス化にするには、整備すべきものがありますが、新館完成までに情勢をみながら必要などころから段階的に構築できるインフラは整備しています。

今後、診療体系において放射線科部門以外の画像、例えば超音波画像、内視鏡画像なども中央管理をすることで、画像情報ネットワーク上でフィルムレス運用を活かした総合的な診療が可能となります。次のステップは画像情報ネットワークを活かした診断レポートの共有化を行うため、中央管理化した画像診断レポート作成システムの構築が必要となります。現在でも、新館読影室のF-レポートシステムを利用すれば、放射線画像ネットワーク上でレポート参照が可能となっていますが、新館と旧館との動線を考えると難しい問題となります。

新館が完成していく中でフィルムレス運用を診療体系の中で活かすために、画像情報・レポート情報を業務における運用と動線を照らし合わせながら、情報コンセントの配置を新館設計図面にのせて欲しいと思います。現在、診断レポート作成システムの具体的運用と構築を考えています。フィルムレス運用にとって診断レポートと画像情報とをデータベース化し診療することは、今後の電子カルテ化、DPC導入時の病院運営にも関わる一因となります。浜松労災病院を中核とした診療体系を地域医療に活かすため今後も頑張っていきたいと思っております。

(放射線科 青井 利行)

◎耳鼻咽喉科からお知らせ

耳鼻咽喉科が非常勤で対応していましたが4月1日より常勤医師として山本英永医師が配属となりましたのでご案内申し上げます。

◎人事異動

(採用)平成20年4月1日付け

やまもと ひでなが
山本 英永

耳鼻咽喉科医師

H.11年卒

【専門分野】
中耳手術、顔面外傷
頭頸部腫瘍

【資格等】

日本耳鼻咽喉科学会専門医
補聴器適合判定医
日本医師会認定産業医



かがわ よしひこ
香川 芳彦

循環器科医師

H.13年卒

【専門分野】
循環器内科

【資格等】

内科学会認定医



とみなが ともひろ
富永 智大

整形外科医師

H.14年卒

【専門分野】
整形外科一般



もろおか ひさか
諸岡 久香

形成外科医師

H.14年卒

【専門分野】
形成外科一般



(退職)平成20年3月31日付け

外科 高橋 亮
整形外科 木村 豪太
形成外科 野田 和男

